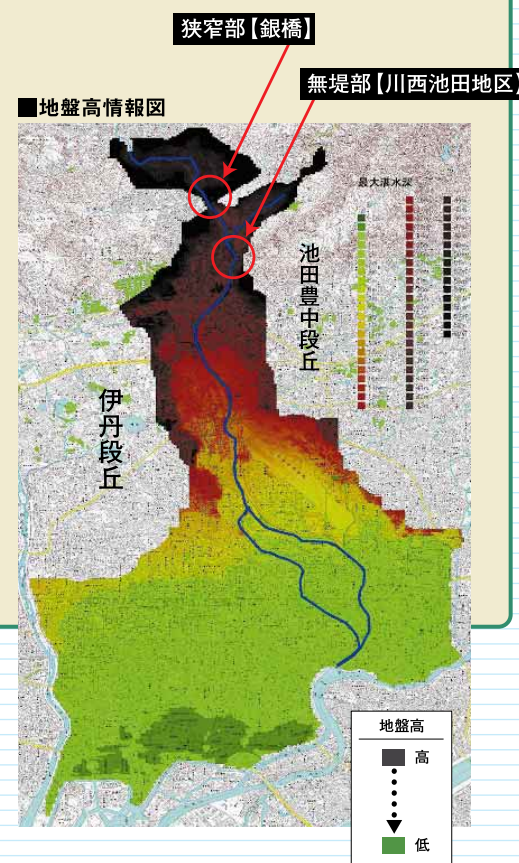
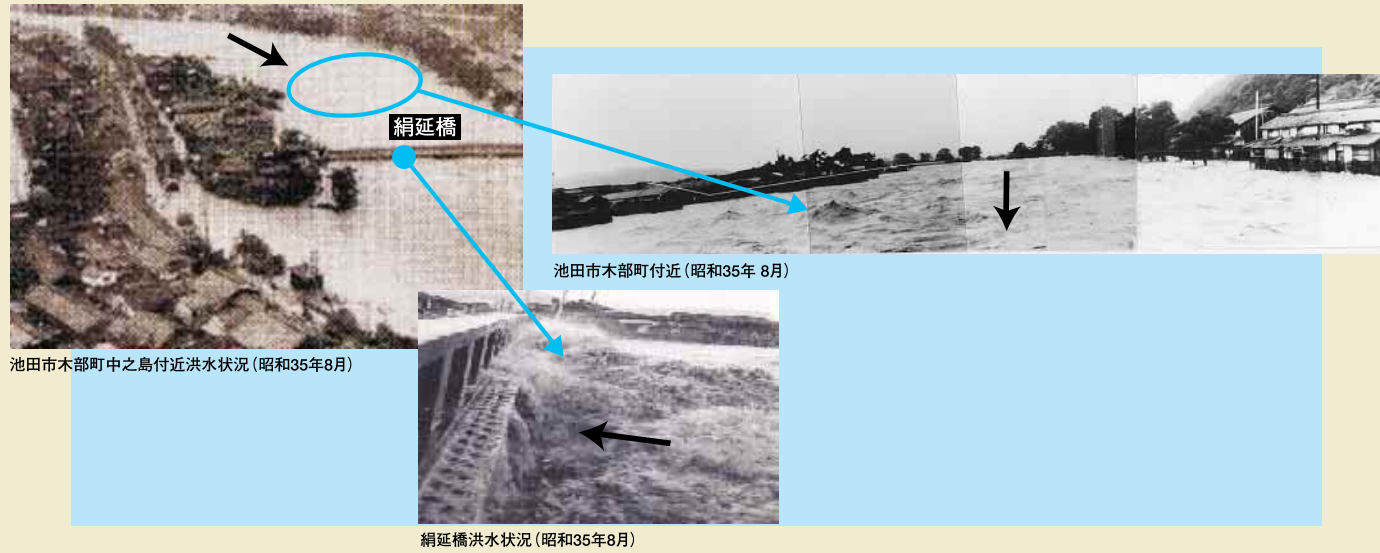


現状の課題

○狭窄部下流の山地部から平地部へ流れ出る箇所に、無堤地区が存在します。

○ここからの浸水は地形上、伊丹地域から大阪平野北部へと広がることが予想されます。



無堤地区の築堤は下流への流量増により破堤の危険度を増大させます

下流の河川整備の進捗状況などを見て判断するのが原則です

現状の課題

○南海大地震発生時には、約2時間で、津波が神崎川・中島川河口まで到達すると予想されています。

津波来襲時の情報提供を強化します

具体的な整備内容

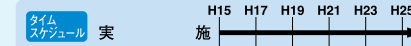
実施項目

津波来襲の危険性と対処の仕方などを示した津波ハザードマップの作成・公表を支援します。

住民への津波に関する広報・学習等を実施します。

津波情報が発表された場合における河川利用者への呼びかけ及び水門等の迅速な操作のための体制整備を行います。

治水38 流域全体

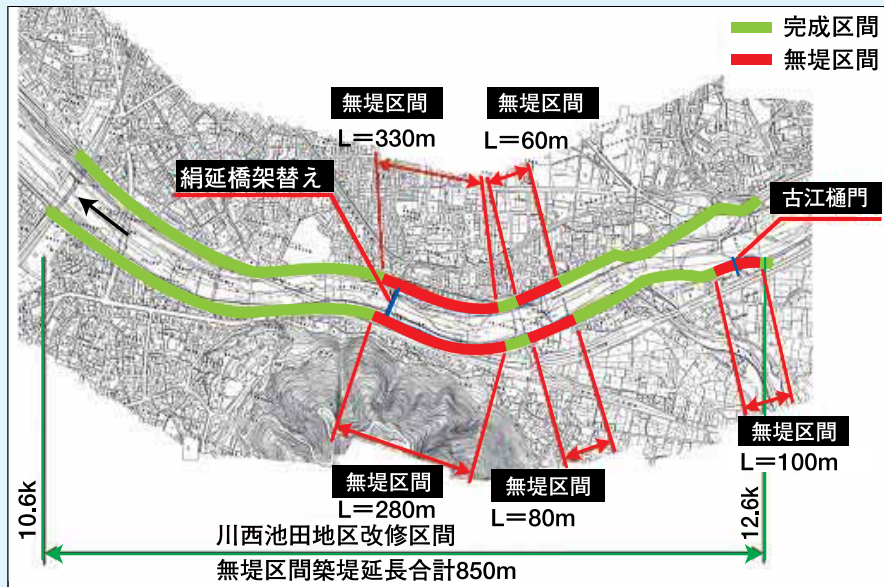


具体的な整備内容

実施項目

○すでに一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所に限定して速やかに事業を完了し、浸水被害の軽減を図ります。

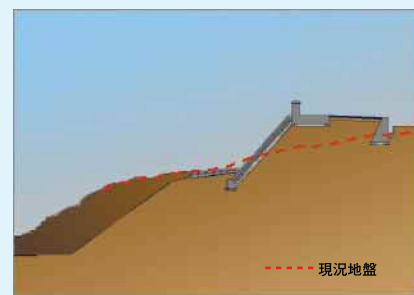
無堤区間が残る川西、池田地区の築堤を継続実施します。



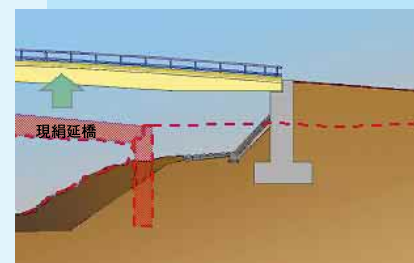
治水22 川西、池田地区



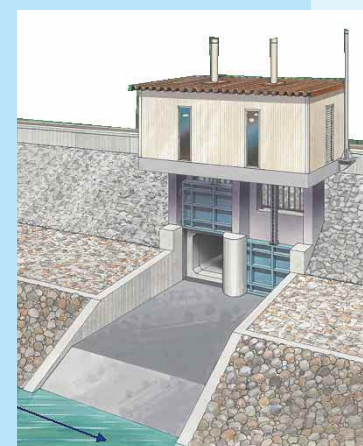
■築堤護岸 (イメージ図)



■絹延橋架替 (イメージ図)

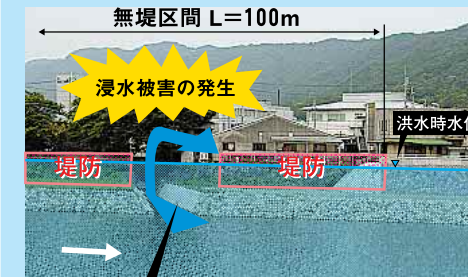


■古江排水樋門 (イメージ図)

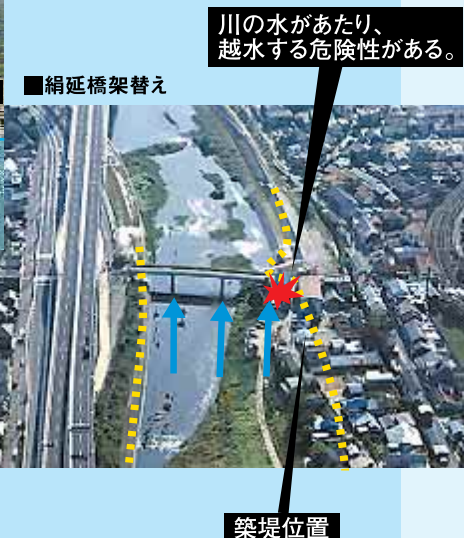


関連事業の必要性

■古江排水樋門



浸水被害の発生  
堤防  
築堤後樋門がなければ洪水時に水路部から宅地に浸水する。



■絹延橋架替

川の水があたり、越水する危険性がある。

■築堤位置